

ぬくもり

P. K

大雪や寒暖の差が激しい時期になると体調を崩しやすくなり暖かさが恋しくなります。暖房機具を使って部屋の温度を上げながら小さい頃を思い出します。冬休みになると従兄弟達が遊びに来て普段とは違う雰囲気になり家の中が活気にあふれます。冬の短い日差しの中、外遊びに夢中になり汗をかけた体は、たちまちソクソクと寒気がして暖かい場所へ入りたくなり、ある場所にもぐりこみます。

そこはチャントクテと呼ばれる瓶をいっぱい置いてある所で広さは家族数にもよりますが大体、畳10畳分位が普通でした。一つの瓶の大きさは大人一人が入っても余る位の大きい物から手のひらにすっぽり入る小さい物も、用途によって大・中・小に分けられ、その使い方は一年分の醤油、味噌、からし味噌、魚の塩づけ等を貯蔵する為の土器で出来た壺（チャントク）を集めた所（チャントクテ）です。——今はマンション暮らしが多くなりこの光景もほとんど観られなくなりました。——

春と夏には新しい味噌、醤油、などを作って発酵させる為その周囲には嫌な臭いがして近づきたく無いのですが、その時も大人達はその嫌なにおいを嗅ぎながら今年の味噌は美味しく出来そうだとか、どうだとかを話していたので‘大人達は、においだけで味が分かるんだ。すごいな〜！’と感心した事もありました

寒い冬となり雪が降ると、別の楽しみが増えます。瓶の上に銀色のシャーペットの氷が出来て子供達を楽しませてくれます。口に入れてみたり、顔に擦ってみたりして……

（今は衛生上、口にする事などは無くなりましたが。）そんな中、日中の日差しで熱せられた土器特有の程よい暖かさが冷えた体をぽかぽかとさせてくれます。そのぬくもりが熱を出した時や寒気がする時には未だに思い出します。



風邪がみで暖かさを恋しく思う度、私自身も体の暖かさだけでなく、近くに居る廻りの人達に心のぬくもりをも感じさせられる人となれる様に努めて行きたいと思う今日この頃です。

執事に就職して

A. H

主の御名を賛美致します。

主の導きにより、今年2月に執事に就職しました。教会規定では「執事の職務は、聖書によれば、主イエス・キリストの模範に倣って、愛と奉仕の業を行い、聖徒の交わりを特に相互の助け合いにおいて具現するものである」と明記されています。必要なものは主から与えられると主を信頼し、取り組んでいきたいと思っています。皆様、どうぞよろしくお願い致します。

今月で娘のMも3歳になります。まだまだ何も分からない小っちゃな幼児だと思っていたのですが、話す言葉もずいふんと増え、意思疎通がだんだんとできるようになってきました。意味不明な言葉や、ヘンテコな言葉に思わず吹き出すことも多いのですが、意外な言葉にハツとさせられることもあります。「お父さん、疲れているの？」たまたまなのかもしれませんが、2歳の幼児なりに何かを敏感に感じ取った言葉なのかもしれません。

仕事では昨年より責任が増し、非常に厳しい競争環境の中で常に結果に対する責任を問われ、忙しさの中で精神的に追い詰められ、心が折れそうになることもあります。それでも御言葉に励まされ、娘の無邪気な笑顔と週末に家族3人で過ごす平安に慰められ、何とか毎日を乗り切っています。

「あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずですが。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。」(Iコリント10:13)

「わたしの兄弟たち、いろいろな試練に出会うときは、この上ない喜びと思いなさい。信仰が試されることで忍耐が生じると、あなたがたは知っています。あくまでも忍耐しなさい。そうすれば、完全に申し分なく、何一つ欠けたところのない人になります。」(ヤコブ1:2・4)

試練に耐えていくことができるように、忍耐力を高めていけるように、また執事の職務を務めていくことができるよう祈りをもって主とともに歩んでいきたいと願っています。